

2004年10月 第17号 By FP Compass



1. 高齢化の影響、日本が最も深刻。そこでIMFが移民受け入れを提言

国際通貨基金（IMF）は9月22日、高齢化に伴う労働人口の比率低下の影響は、少子高齢化が急速に進む日本が長期的に最も厳しく、成長率の低下とともに将来は経常収支が赤字に転落するとの分析を盛り込んだ報告書を発表しました。

これは、人口動態が世界経済に与える影響を分析した報告書で、日本には、海外からの移民受け入れが一つの対策になると提言。日本や欧州などの先進国の高齢化は国の財政を悪化させ、とりわけ年金制度や医療保険制度の制約となると指摘し、高齢化が進むほど制度改革が困難になるとして、早急な政策対応を促しました。

報告書はIMFが今月末にも公表する世界経済見通しに盛り込まれます。

移民受け入れ策について報告書は、米国では人口増に寄与したと評価する一方、日本や欧州の人口高齢化に対しては「一時的な」改善策にすぎず、長期的にそれだけでは問題は解決できないとも強調しています。自国の出生率を上げる対応が必要だと指摘しています。

同時に、社会への受け入れや政治的な障害など、移民受け入れ実現の困難さにも触っています。

IMFの立場での提言は興味を引くものとなっていますが、当事者である我が日本では、少子高齢化に対応する具体的かつ長期展望に則った施策が見えてきません。

合計特殊出生率が1.29と過去最低となり、今年度から人口減少のターニングポイントとなり、まさに危機的状態が始まっていると言えます。

非婚や子どもをつくらないというのは、各個人の価値観に基づいて考えている場合や、やむを得ない状況で、そうなることもあります。

でも、子を持つ家庭に比較して、子どもの養育費用や教育費などがかからないという観点で、おおむね経済的には恵まれています（例外もありますが）。

子どもは将来の日本を背負って立つ大事な宝です。

しかし、子どもを自立するまで育てるのには膨大な時間と費用がかかります。

地域社会において、時間的なバックアップをし、経済的な支援を税金面で行うことが公平性を保てるのではないかと思います。

子を持つ親の、働く環境整備を行い、画一的、ばらまき的な育児手当の支給を考える前に、子どもを持つ親の扶養控除を思いっきり増やす（できれば1名あたり108万円以上、税額として年間10数万円以上の減税が期待できる）など、子をもつ親にとって、働く意欲を損なうことなく、かつ魅力的な施策を打ち出して頂きたい。

最近、定率減税を廃止するという方向性を出していますので、その財源を長期的な展望に立った少子高齢化問題解決に使っていただきたいと思います。

2. 実力派専門病院が注目している

大病院志向が強いなか、規模は小さくても特定の専門分野で優れた実績を挙げている医療機関があります。確かな治療技術に加え、先端医療に取り組んでいるのが強みとなっています。ここで、ある先端技術を紹介したいと思います。

「手術した日に自宅に戻って風呂に入れたし、翌日からは仕事もできました」と話すM子さん（54才）は今年4月、宮崎市にある乳腺専門の『プレストピアなんば病院』（36床）で乳がんの手術を受けました。

「麻酔は使わず、看護師さんと会話をしながらの手術は検査のようでした」とM子さんは言った。M子さんが受けた手術は『MRガイド下集束超音波手術（FUS）』と言います。

国際臨床試験中の最先端技術で、プレストピアなんば病院はアジア地域で唯一の臨床試験参加医療機関として今年4月からFUSを行っています。

磁気共鳴画像装置（MRI）で腫瘍の位置を確認しながら、200本以上の超音波ビームを病巣部に集中的に照射して、がん細胞を死滅させる仕組みです。

皮膚や患部周辺の細胞を傷つけないので術中や術後の痛みが無く、回復も早いのが特長となります。同病院は1991年に日本初の乳腺専門病院として開業して以来、計2,300件の乳がんの手術を手がけてきました。現在FUSは公的医療保険の適用がないので、自由診療となり、費用は150万円以上と高額となります。しかし、乳房を温存でき、術後経過や早期の社会復帰など患者の生活の質（QOL：Quality Of Life の略）が高まります。

プレストピアには国内外から見学や問い合わせが相次いでいます。

がんの治療方法で公的医療保険が適用とならない、いわゆる自由診療による最先端治療といわれるものには、最近の傾向として、QOLにこだわった治療方法が多く見受けられます。

しかも、治療中に痛みや副作用もほとんど無く、また、退院後も社会復帰の早さに驚かされます。このような患者にとってメリットの多い治療法を享受できる人は限られています。その理由として、

①自由診療となるため高額な治療費用がかかり、費用をまかなうことができない。

②費用は調達できるが、最先端治療方法やそれを行っている病院を知らないので、かかりつけの医師による治療方法にならざるを得ない。

などが挙げられます。

日本において、ようやくセカンドオピニオンが言われてきてますが、現状はまだまだの状況ではないでしょうか。

でも皆さんご安心ください。がんの最先端治療を、手軽に選ぶ事ができ、費用の心配もなく受けられる仕組みが、我が日本にもあるのです。

それは、日本初自由診療対応型保険、セコム損保のがん保険『メディコム』です。

『メディコム』の特徴は、健康保険診療はもちろん、自由診療にも全額対応となっています。この方法を採用しているのはセコム損保だけとなっています。

☆万一、がんと診断されたとき、まず最初にメディコム・ナースコールにご連絡。

☆そして、症状に合わせて先端治療や定評ある医療機関をご紹介。

☆診療や治療方針について、別の視点で専門家がアドバイス。→セカンドオピニオン

☆治療方針を選択、そして決定。

☆自由診療の場合…セコムが直接治療費を医療機関に支払い。

☆公的保険診療の場合…一旦治療費をお立て替えしていただき、その後セコムにて支払い。

☆保険金額（ガン入院費用保険金、ガン外来手術費用保険金…最先端治療法による治療費を含む）は無制限、ガン入院諸費用保険金1万円（定額）／1日も支払い日数無制限、

　　ガンと診断されたとき…ガン治療準備保険金50万円（65歳以上は10万円）

　　ガン退院治療保険金50万円（65歳以上は10万円）

この保障内容で、30歳男性で月払保険料が 1,570円（1日あたり約53円）

　　40歳男性で " 2,550円（1日あたり約85円）

最長100歳まで補償が継続できます。なお詳細は、同封のパンフレットをご参照下さい。

3. ここがへんだよ日本の保険

よく、営業現場での話の中で、「保険はもう何本も入っているから大丈夫だ」という方がたくさんおられます。これは、断り文句の常道手段と言えます。

しかし、保険とは本数で安心することがいかに危険かという事を知らなければなりません。

保険で重要なことは、想定されるリスクに対し、財務的ロス（損失）の予想最大金額を算定し保険金額を決めることが重要となります。

例えば、火災保険において現在時点での建物価額3,000万円と仮定します。

火災保険の保険金額1,000万円で加入した場合。全焼時で1,000万円の保険金が支払われます。しかし、半焼（1,500万円）損害の場合、保険金額の半分、500万円しか保険金は支払われません。

巷のうわさ話で、屋根や柱が残っていた場合、保険金は支払われないとか、保険会社は支払いが悪いと言う方が大変多くいらっしゃいます。

保険会社は、契約者との決めごとを書いている『約款』に基づき保険金の支払いを行っています。約款で決めた以外での保険金の支払いはありません。債務不履行となり法律違反となります。大事なことは、契約時にいかに契約内容を真剣に考えるべきかということです。予想される最大損失金額を算出しているか。新価の価額協定など有利な契約方法や地震リスクの説明を代理店や営業職員の人があげてくれているかが重要なポイントとなります。

私の今までの経験上、見させて頂いた火災保険証券の中で残念ながらほぼ100%といえる率で、最大損失金額や新価の価額協定金額を算定されている火災保険はありませんでした。（過去14年間でたった1件のみ、きちんと算定されていました）

そのほとんどが一部保険となっており、保険の機能が損なわれています。

逆に過剰保険となっている場合もまれにあり、この場合は、保険料の無駄となります。

損害保険において、新価の価額協定金額または評価以上に保険金を支払うことはありません。

共済などでは損保と別枠と言って、過剰な補償としている場合も見受けられます。実際罹災した場合は、翌日には社外の鑑定士が現場に行きますので、そこで、どこの保険会社とか、共済に掛けているなどの情報交換がされ、結果的に評価額の範囲内での保険金や共済金の支払いとなります。また、あらぬ疑い（保険金詐欺等）もかけられる恐れもあります。

話を戻しますが、保険金額を算定する時に、保険の専門家が、被保険者の予想される最大損失金額をはじき出し、保険の効力を最大限に生かす提案を心がけていかなければなりません。また、契約者の方も目先の保険料にこだわりすぎて、保険の本当の効力を生かし切れない契約になるデメリットを理解することが必要となります。

4. FRM財務リスクマネージャー養成講座終了し、検定試験合格しました

6月の末から毎週土曜日に開催された、東京での「財務リスクマネージャー養成講座」を無事終了し、また、最後に行われた検定試験にも何とか通り、合格証が届きました。

財務リスクを取り上げた養成講座なので、メンバーはほとんど税理士の方々でした。
この専門性をいち早く皆様にフィードバックしたいと思います。

5. ジェームスに逢ってきました

先月号で紹介したあのジェームス・スキナー氏の講演を大阪で聴いてきました。

到着時間が早かったために、仙台から来た知り合いと一緒に真ん中の最前列に座りました。

講演は、ジェームスのペースに引き込まれ、受講者とのまさに双方向の講演なので、眠気を催す暇もなかったです。分かり易く、楽しい講演を演出し、今までのセミナーは何だろうと思うくらいの、素晴らしい内容で、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

6. マネー講座(SMMS) 10月コース、11月コース開講

今年の4月5月に、天童市市民プラザにおいてマネー講座（Successful Money Management Seminar）を開催していただき、おかげさまで好評を得ることが出来ました。

下記の要項にて、また天童市市民プラザの講座に組み入れて頂きました。

10月コース 10月 2日、9日、16日（各土曜日・3回コース）

11月コース 11月13日、20日、27日（各土曜日・3回コース）

いずれも18：30～20：30となります。

会 場：天童市市民プラザ（天童駅前パルテ3階：カルチャー1）

受講料：3,150円（夫婦、ペアは1名分でOK）市民プラザにお支払い下さい

教材費：3,000円（夫婦、ペアは1名分でOK）会場にてお支払い下さい

申込先：天童市市民プラザ ☎023-654-6200まで

ご注意：申込期限が過ぎていますので、もしもの時は当社までご連絡を。

7. FPの日のフォーラム開催…日本ファイナンシャルプランナーズ協会からのお知らせ

11月6日（土）に山形テルサにて、一般市民向けにフォーラムを開催します。

今年の講演者はテレビ等でおなじみの和泉昭子さんで講演内容は

「人生いろいろ」わたし流キャリア&マネープラン」で400名限定となります。

申込先は ファクス 022-722-3221で、お名前、ご住所、電話番号、ファックス番号、電子メールアドレス、講演会場は山形とご記入の上、送信してください。



発行者

有限会社 FPコンパス

武田幸夫

〒994-0054 山形県天童市荒谷2589

TEL 023-654-8831 FAX 023-654-8832

E-mail tide@mm.neweb.ne.jp